

## 女性リーダー養成講座実施報告【第3回】

○日時 11月8日(月) 13:30~16:00

○場所 高松市男女共同参画センター 会議室

○参加者 32名



### 講義「女性のリーダーシップ・マネジメント力向上スキルアップ講座」

講師 谷 益美さん(コーチ・ファシリテーター/株式会社 ONDO 代表)

第3回にして初めて講師、受講生共に会場に集まり開催することが可能となった今回、谷さんの「あなたはリーダーですか」という問いから始まった。



2~3人のグループで話し合いながら、色々な意見が出た。あるグループは立場上全員リーダーだが、自分たちは引っ張っていくタイプではない、どちらかといえば、私は部下を後ろから支えるタイプ(サーバントリーダー)で別の方は部下と伴走するタイプ。また、別のグループでは職場では退職目前でリーダーという立場を降りているため、リーダーではないが、ボランティアでは現在リーダーとして頑張っているためリーダーでもあるし、

リーダーでもない微妙な立場だという方もいた。

その後、『リーダー』と『リーダーシップ』の違いについて説明し、リーダーでなくともリーダーシップを発揮して周囲にポジティブな影響を与えていくことはできるということを教えていただいた。

また、リーダーシップにはいろんなスタイルがあり、『私らしいリーダーシップ』とはどういうものなのかということのをソーシャルスタイル診断を実施して分析。4つに分けられるタイプのいずれに当てはまるのかを診断し、自分がどんな属性かを知ること、自分の長所・短所を客観的に見ることができていた。



また、マネジメントについては「進捗を管理する人」というイメージがあるが、本来の意味はそうではなく、「限りある資源を上手に使い、何とかする人」ということ。前例もなく良いか悪いかの判断もつきかねるような問題をどうにかしていくことがマネージャーの仕事であるということを教わった。

最後にスキルアップ、レベルアップはすぐに上がるものではなく、きちんと段階を踏んで上がっていくものである。また、自分と違う考えだからあなたは間違い！ではない。違いと間違いを

混同せず、違いの中でどうコミュニケーションをとっていくかということが大切であると話された。

### 参加者の感想

- 実際に周りの方とお話ができ、アウトプットする場があったため新しい意見を聞くことができた、と同時に自分も改めてリーダーについて考えることができた。
- 自己流のコミュニケーションはタイプの違う人にとっては、苦痛に感じる場合もあることに気がつき、それがコミュニケーションの躓きになっていたんだと思いました。
- 自分とは違う考え方や価値観を他者は持っていると思っていてもなかなか効果的なコミュニケーション方法が分かっていなかったの、すぐに実行できる方法が分かったのがとても良かった。現場でぜひ活かしていきたい。
- もらった資料や講座の内容等、難しいことは何もないけれど、頷きがとても多い回でした。自分の考え方、行動で変えていけるな、実際にやってみたいなと思えました。昨年受けた職場の方も良かったと、話を聞いていた通り楽しく、そしてためになる講座でした。人間の基本であるコミュニケーションは永遠のテーマだなと感じました。
- 他の参加者との方と話をしながら進めてくださったので、自分の考えを客観的に知ることができ、自分以外の考えや価値観を知ることができ、視点が広がりました。
- とにかく谷さんのお話が楽しかったです。リーダーは色々な形があるというのは1, 2回で学びましたが「周りにポジティブな影響を与える人」がポジションなどは関係なくリーダーという話を聞き、職場の方で思い当たる人がいてなるほど！と思いました。同僚でも友人でもその場その場で誰でもリーダーになり得るんだと思います。人と接していて相手の反応が悪い時「質問を間違えたなあ、けど何がいけなかったかなあ」とモヤモヤすることがありましたが、4タイプを学び「自分とは合わない」ではなく、人の考え、価値観をもっと受け入れようと思いました。
- 「知っているけど、できない」について、知っていることを実行するためのスモールステップを日々考えて一つずつ実現していきたいと思いました。

## 女性リーダー養成講座実施報告【第4回】

○日時 12月2日(木) 13:30~16:00

○場所 香川県庁 21階 特別会議室

○参加者 31名

講義「県内の女性リーダーを囲んで、リーダーシップを学ぶ」

講師:向井 紀代さん(株式会社サンキ)

土手 美恵さん(NPO 法人どんぐりネットワーク副理事長)

古竹 永津子さん(昨年度修了生)

全体コーディネーター:中橋 恵美子(NPO 法人わははネット 理事長)

「県内の女性リーダー」として、香川県を代表する3人のリーダーをお招きした。皆様からそれぞれ自らのキャリアやリーダーをしていてつらかったこと、うれしかったこと、心がけなどお話をいただき、参加者との意見交換も行った。

### ■向井 紀代さん(株式会社サンキ)

向井さんは10年間前職で勤めた後、女性目線で会社のブランドアップに取り組みたい、新規事業を立ち上げたいということで、現在の職場に転職し、2021年7月よりダイバーシティソリューションチームのチームリーダーとしてかかわってきました。誰も知らない、誰もしてきたことがない手探り状態でどこから手を付けたら…というプレッシャーの中、現在仕事をしています。



### ■土手 美恵さん(NPO 法人どんぐりネットワーク副理事)



土手さんは15年看護師として働いていた。当時は、オペ室やICUなど人との触れ合いが少ない職場で働いていた。子育てに専念するため、キャリアを一旦リタイヤし、その後、子育てを通してどんぐりネットワークと出会った。子どもが小2の時にどんぐりネットワークの理事にと白羽の矢が立ち、そこから現在まで10年間活動している。

### ■古竹 永津子さん(昨年度修了生)

古竹さんは昨年の修了生の代表として登壇していただいた。古竹さんは、現在の会社に新卒で入社し現在11年目。大学では社会学を専攻していたが、技術職にも興味があり、技術職で入社。最初は技術的な知識がなく、大変だったが、仕事が肌に合っていたのか、とてもやりがいを感じていた。3年前に1回目の育休を取得。去年2回目の育休を取得し、その後復帰した。



ただ、1回目の育休復帰が思うようにいかず、苦しい思いをしたので、2回目の育休に入ることに、すごくモヤモヤを抱えていた。そんな時、女性リーダー養成講座を見つけ受講することにした。特に、自分の働きかけ次第で環境は変えられる、キャリアをあきらめない！という言葉が目から鱗で、2回目の育休復帰はとてもスムーズで、この講座を受講して良かったと話した。

#### [第1部]

#### リーダーとしてつらかったこと、失敗したエピソードと乗り越え方

(向井さん)

『メンターを付けた新卒の社員が全員辞めてしまったこと』と話した向井さん。また、それだけが理由ではないと思うが、メンターをお願いしていた社員も数名辞めてしまったこと。2人の関係性についてフォローしきれなかった。自分自身が少し離れたところでメンターメンティーを見すぎていた。本当に反省しかない。

それ以降、身近な相談相手として気軽に話せるような関係づくりをするよう心掛けている。

(土手さん)

『前へ前へ！一人ハイスピードで進みすぎたこと』…10年前右も左も分からない状態で急に理事になり、自分でいっぱいの中、周りに全く配慮できずにいた。その中で、周りとの距離に気づけなかった。同じ GOAL に向けて一緒に走っていた仲間と、いつの間にかうまく回らない状況を作り出してしまったこと。気づいたきっかけは周りへの不満だった。どんどんままならなくなり、追い詰められてからやっと自分の現状を俯瞰的に見ることができた。

(古竹さん)

1回目の育休復帰後うまくいかず、その当時はやはり仕事に対しても積極的になれずにいた。その中で谷さんの”リーダー≠リーダーシップ”だれでもリーダーシップを持っていい！リーダーに縛られない。という言葉が心に響き、良いチームにするためには自分から声をかけてもいい！ということに気づけた。

#### リーダーとして嬉しかったこと

(向井さん)

後輩発信で改善の希望を自分に言ってくれるようになったこと！先輩に話しかけるのは本当

に勇気が必要だと思うし、その中で後輩から発信してくれるということは信頼関係を築くことができたからこそだと思うので、それが一番嬉しかった。

(土手さん)

個人としてのスキルアップ。現場、事務等マルチタスクになれた。また、いろんな人たちと関わることにより、自分自身を育ててもらったこと。どんぐりランドは思いで頑張る人たちのリスクが高いので、その方たちと一緒に活動できることは本当に嬉しいことと話した。

(古竹さん)

チームのモチベーションがUPしたこと。具体的には、安全活動に参加。色々な視点から安全を調べようと提案。古竹さん自身は自分の意見を押し通すタイプだったが、昨年養成講座を受け、周りの話を聞く姿勢に変えた。チームワークを作るリーダーシップを発揮できたことが嬉しかったと話した。

### リーダーとして大切にしていること、意識していること

(向井さん)

「今いいですか？」を断らない。今までの成功も失敗もコミュニケーションがうまくいか、いかないかだった。常に後輩や部下が声をかけやすい雰囲気を作るように心掛けている。



(土手さん)

「頑張らない・急がない・よく聞く」失敗から学んだ3つ。



頑張りすぎると肩に力が入って、世界が狭くなる。忙しくなると結果が欲しくなる。みんなの気持ちが温まるまでは余裕をもって待つ。自分の正解を持ってしまうと、周りの声が聞こえなくなるので意識して聞く。ひとりひとりに聞き取りをして、紙に書いている。そうすることにより、その人が言っていることと、自分がとらえた言葉の齟齬がないように気を付けている。

(古竹さん)

「共有」情報・目的・問題・思い、みんなが同じ目線じゃないと向かう方法が定まらない。情報共有がないとなんて言ってくれない？自分が問題だと思っても、ほかの人はそうでないこともある。目的も共有しておかないとみんな違う方向を向いて進んでいってしまう…。リーダーというのはみんなの共有の場を設けることを働きかけることが大事だと思っている。



全員に共通しているものは『**双方向のコミュニケーションスキル**』

## [第2部]

第1部を聞いて、思ったことや登壇者に質問したいことなどを話しあう。その後、受講生からの質問に対し、登壇者は時間が許す限り答えていた。



最後に修了式が行われ、すべての講座を受講された29名の参加者に県知事から修了証が授与されました。この講座が、さらなる女性の活躍のきっかけになればと思います。参加者の皆様お疲れさまでした。

## 集合写真

